

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校 定時制課程
-----	--------------------

1 前年度 評価結果の概要	○一人一人の進路希望実現へ向けてのキャリア教育の充実 ○個別支援の必要な生徒への対応の充実	○社会性を高める取り組みの充実 ○新学習指導要領移行へ向けて、移行措置の完全実施と研究活動の充実
------------------	--	---

2 学校教育目標	グローバル経済社会、高度情報社会で活躍するために必要な学力と知識技能を習得させ、社会に必要なマナーやモラルを身につけさせるとともに、何事も自ら考え行動できる生徒育成を目指す。
----------	---

3 本年度の重点目標	①個々の進路実現に向けた基礎学力の向上とキャリア教育の充実 ③授業及び行事の充実を図り、学校生活への意識・意欲を高める	②社会規範やモラルを遵守し、他人を思いやる豊かな心の育成 ④個別支援が必要な生徒への対応の充実
------------	--	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の向上	○学びの基礎診断テストの平均GTZ(学習到達ゾーン)が、昨年よりも向上した生徒の割合を25%以上とする。	・9月を学力定着強化月間とし、国語・英語・数学の15分間の指導を毎日実施する。	A	・数値目標25%に対し46%を達成した。学力定着強化月間の指導時間を当初計画の15分から30分に延長したことによる効果だったと分析する。しかし、生徒別や科目別では伸び悩んだ生徒もいた。今後は、通常の授業を通して継続した取組を行うことでさらなる定着を図りたい。	A	・数値目標を上回る結果であった。学力定着強化月間の指導に効果が出たことが分析できるため、今後も引き続き、基礎学力の定着に向けて指導を行っていききたい。	A	・学習指導の継続により、学力の向上が見られる。	教務
	○キャリア教育の充実	○年度内に卒業予定者全員の進学先及び就職先を決定(内定)する。 ○進路意識向上に資する講演や説明会等を各学期に2回以上開催する。	・担任や生徒や保護者との情報共有を密に行い、各生徒の進路目標に応じた情報収集と情報提供を行う。 ・本校卒業生や学校関係者、ハローワークなどと連携し、生徒が身近に実感できる講演、説明会を実施する。	B	・卒業予定者の就職内定率は55.6%、進学希望者の合格率は100%(11/11現在)。一次試験不合格の生徒も二次志願先応募に向け指導継続中。また1名については就職支援員と情報共有し、進路決定に向け対応中。 ・外部講師を招いた取り組みについて、当初計画通りに実施済。生徒アンケート結果からも概ね成果が上がったものと判断できる。	A	・就職希望者7名については全員内定した。進学希望者2名についても全員合格した。一時的な職に就く者2名を含め3名が、正式な就職及び進学を決めないまま卒業することとなった。卒業後も指導ができるよう、引き続き連絡を取りながら情報提供等を行う。 ・外部講師による進路指導も成果が見られた。	A	・丁寧な進路指導ができています。	進路指導
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者を思いやることの大事さに気づく生徒80%以上とする。	・スクールカウンセラーによる心の授業や、各種講演会を通して、思いやりの心を持つことの大切さを伝える。 ・性教育に関する講演を実施する。	A	・スクールカウンセラーによる「心の授業」を実施し、他者や自分を大切に思うことを学んだという感想が多数見られた。各種講演会の中でも他者を思いやり自分を大切に思うことを学ぶことができた。	A	・スクールカウンセラーによる「心の授業」は計画に沿って実施できた。生徒も他者を思いやり自分を大切に思うことを学ぶことができた。	A	・思いやりの心を育てる指導ができています。	保健部 教育相談
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていて回答した教員90%以上とする。	○いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ○いじめの対応についての研修・会議(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)を年間に2回以上行う。	A	・5月にいじめ防止研修会を行い、認知・覚知に対する対応マニュアルの確認を行った。 ・「いじめに関するアンケート」は2月に1回実施した。生徒指導措置(覚知・認知)の件数は2件。 ・11月に情報モラル講習会(SNSいじめ問題を含む)を行った。	A	・生徒からの申し出を早期に聞き取り、「いじめ」と捉え、早期に対処することができた。覚知後も継続して、生徒へのケアを行うことにより、事案の重大化を防ぐことができた。引き続き、全職員が意識を高くもって指導に当たる。 ・情報モラル講習会も一定の効果をアンケート等で確認した。	A	・いじめの早期発見に対する意識が高まった。	生徒指導 教育相談
	○ルール・マナー、規範意識の醸成	○ルールやマナーの遵守など、規範意識が高まったと考える生徒70%以上とする。	・服装検査を年間4回行う。 ・自己チェックアンケート年間3回行う。 ・挨拶や入室指導の徹底、歩きスマホの危険性を伝え、全職員で一貫した指導を行う。	B	・服装検査は3回、長期休業明けに行った。髪型、ピアスなどを注意することが多いが時間をかけて改善できた。 ・自己チェックアンケートは現在10月10日行ったが、同じ生徒が改善できていない状況が続いている。 ・また歩きスマホ禁止については、繰り返し注意しているものの、改善できていない。生徒会を中心に1日回収などを試験的に行った。	B	・生徒からの申し出を早期に聞き取り、「いじめ」と捉え、早期に対処することができた。覚知後も継続して、生徒へのケアを行うことにより、事案の重大化を防ぐことができた。引き続き、全職員が意識を高くもって指導に当たる。 ・情報モラル講習会も一定の効果をアンケート等で確認した。	A	・いじめのある学校生活を送る指導が継続されることを期待する。	生徒指導
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上とする。 ○毎日朝食をとる生徒50%以上、給食の喫食率85%以上とする。	・ホームルーム活動等で、給食を題材とした指導や食育講話を実施する。 ・「給食だより」「保健だより」、掲示物を活用し情報提供する。 ・担任と連携し、生徒の食習慣や生活習慣を把握する。 ・学校医、保護者、関係機関と連携し、健康教育や保健指導を実施する。	B	・7月の食育アンケートで、「健康のために栄養バランスのとれた食事が大切だと思う」54%、「毎日朝食をとる」27.3%であった。給食喫食率は、10月現在で75.8%であった。 ・食育講話として味噌づくりを1月に計画している。 ・1年生への歯科講話を11月に実施した。 ・生徒の食事状況を把握し、給食を食べない生徒に対して指導をおこなった。 ・「給食だより」や「保健だより」を発行し、生徒へ意識向上を促している。	B	・「健康のために栄養バランスのとれた食事が大切だと思う」生徒の割合を高めるよう指導する。毎日朝食を取るなど食事の面からも規則正しい生活が送れるよう指導する。 ・食育講話として味噌づくりは、コロナの影響で実施できなかったため、機会を作りたい。 ・給食を食べない生徒に対しては、継続して食事を取るよう指導ができ、改善した。 ・「給食だより」や「保健だより」を発行し、生徒への意識向上を促すことができた。	B	・健康教育のさらなる充実を図ってもらいたい。	保健部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校内LANでの情報共有化や新システムの機能を活用し、業務の効率化を図る。 ・職員会議や分掌会議の時間を設定し、会議の効率化を図る。 ・学校閉庁日を設定する。 ・有給休暇の取得を推進する。	A	・職員の業務を効率化するため、データを共通して利用するなど工夫した。 ・会議の時間を短く設定するなど効率化した。 ・学校閉庁日を設定し、休業日とした。 ・夏季休業中に有給休暇の積極的な取得を呼びかけ、職員の積極的な取得につながった。	A	・職員の業務を効率化するため、データを共通して利用するなど工夫した。 ・会議の時間を短く設定するなど効率化した。 ・学校閉庁日を設定し、休業日とした。 ・夏季休業中に有給休暇の積極的な取得を呼びかけ、職員の積極的な取得につながった。	A	・職員が有給休暇を積極的に取得するなど、健康管理意識も高まっている。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○学校生活への意欲向上	◎佐賀を誇りに思う教育充実	○講演会実施後のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒数を80%以上とする。	・本校職員による海を舞台に活躍した郷土の人々についての講演と、歴史劇を交えた郷土の偉人についての講演の2回を実施する。	A	・11/10に佐賀城本丸歴史館の見学を実施した。ボランティアによる説明と生徒の自由見学を行ったが、その後のアンケートでは今まで知らなかった佐賀の歴史や偉人についていろいろ知ることができて良かったという感想が多く見受けられた。今後も校外で行っていろいろな体験や見学をさせていきたい。	A	・11/10に佐賀城本丸歴史館の見学を実施した。ボランティアによる説明と生徒の自由見学を行ったが、その後のアンケートでは今まで知らなかった佐賀の歴史や偉人についていろいろ知ることができて良かったという感想が多く見受けられた。 ・修学旅行でも県内修学旅行を実施し、佐賀県の良さを再確認することができた。	A	・さがを誇りに思う取組ができています。	教務(担当)
○生徒会活動の充実	○生徒会活動での計画準備、役割分担を行い、学校行事の充実を図る。 ○校外ボランティア活動を年間2回以上実施する。	○生徒会活動での計画準備、役割分担を確立、再検討する。(特に体育祭、クラスマッチ、3年生を送る会) ○生徒会を中心に校外清掃、献血や募金活動の校外ボランティア活動を行う。	・生徒会活動の実施計画や運営方法を確立、再検討する。(特に体育祭、クラスマッチ、3年生を送る会) ・校外ボランティア活動を年間2回以上実施する。	A	・生徒会を中心に、講習会での準備片付けや謝辞など、学校行事も積極的に活動するようになった。体育祭では感染症対策に工夫をしながら、新しい種目を企画した。 ・校外での研修会時に10分間の清掃活動を行ったり、スマホの使用の仕方などの目的で一日スマホ回収などを行った。	A	・生徒会を中心に、講習会での準備片付けや謝辞など、学校行事も積極的に活動するようになった。体育祭では感染症対策に工夫をしながら、新しい種目を企画した。 ・校外での研修会時に10分間の清掃活動を行ったり、スマホの使用の仕方などの目的で一日スマホ回収などを行った。	A	・生徒の状況に合わせた対応ができています。	生徒指導(生徒会)
○資格取得の奨励	○検定取得に対する意欲を高め、検定の合格率80%とする。	・商業に関する科目を選択している生徒に対して検定取得への挑戦を促し、検定合格のための支援を充実させる。	・毎月1回の生徒情報交換会を充実させる。 ・部会での情報交換及び共有を充実させる。 ・全職員で生徒の情報共有ができるようファイルを作る。	B	・現時点で3つの検定試験を受験し、受験者数36名、合格者数25名、合格率69.4%であった。今後実施される4つの検定試験での合格率アップに努めていきたい。	B	・7つの検定試験を受験し、受験者数63名、合格者数44名、合格率69.8%であった。今後も合格率アップに努めていきたい。	B	・生徒の検定取得指導もさらなる充実を期待する。	教務(商業科)
○特別支援の充実	○教職員の専門性の向上と共通理解の深化	○共通理解が図れた、資力が向上したと感じる職員90%以上とする。 ○教育相談部会月2回以上実施する。	・毎月の生徒情報交換会を充実させる。 ・部会での情報交換及び共有を充実させる。 ・全職員で生徒の情報共有ができるようファイルを作る。	A	・11月末までに部会を19回実施し充実した情報交換と情報共有がはかかれている。 ・毎月の生徒情報交換会もきちんと開催され、生徒の変化について情報共有ができています。 ・ファイルについては作成の必要性を検討中	A	・11月末までに部会を19回実施し充実した情報交換と情報共有がはかかれている。 ・毎月の生徒情報交換会もきちんと開催され、生徒の変化について情報共有ができています。 ・ファイルについては作成の必要性を今後も検討する。	A	・生徒の把握と情報共有ができています。	教育相談

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・全般的に生徒の状況に合わせた指導ができていますが、自ら学ぶ姿勢や、自身の課題を自身で解決しようとする能力をさらにつけさせる必要がある。 ・社会の情勢が大きく変化する中でも、自分の力で生きていくことができる能力や人間性を育むための活動を行っていく。
----------------	---